

研究種別	重点化課題	
研究課題名	暑熱時における母豚の繁殖改善技術の開発	
研究期間	平成31年度 ~ 平成33年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	4.0
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	4.0
	総合評点	4.1

## [コメント]

暑熱ストレスによる繁殖成績や生産性の低下を防ぐ技術を開発することは、養豚のみならず畜産全体の課題として大変重要である。母豚を対象とした研究は、発情、受胎、妊娠、分娩、授乳という数多くのステップを踏むこと、研究期間が長いこともあり、全国的にみても研究例が少ない。その意味でも、本課題の遂行は、実用と学術の両面で価値あるものと位置づけられる。

暑熱ストレスによる繁殖性の改善を、ファインバブル水とアスタキサンチンの投与により改善を図る内容となっている。ファインバブル水の機能性は、内閣府が行っている「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」でも取り上げられており、工業分野のみならず畜産現場での活用が注目されている。また、アスタキサンチンが強い抗酸化能を持つことは以前より明らかになっており、暑熱ストレスによる生体内の過酸化物の除去には、この投与が有効と考えられる。加えて本製品も安価に生産できるようになっており、費用対効果も大きい。本課題はファインバブル水やアスタキサンチンを活用する点に新規性があり、これまで有効な対策が少なかった暑熱時の繁殖改善技術の大幅な進展が期待される。

研究目標や計画も適切に設定されており、この課題を実施することで得られる成果は、山梨県の養豚農家に速やかに還元できると考えられる。このことは、県内ブランド豚である甲州富士桜ポークの安定生産に繋がると期待できる。

前述の通り、暑熱ストレスによる繁殖成績や生産性の低下を防ぐ技術の開発は、畜産全体の課題である。本重点課題の実施は、養豚のみならず、養鶏、酪農、肉用牛の生産農家にも益すると考えられる。

## 事前評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

平成30年8月21日(火)

研究種別	県単(一般分)課題	
研究課題名	気候変動等に対応した牧草サイレージ調製技術の確立	
研究期間	平成31年度 ~ 平成33年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.0
2	研究内容の新規性	4.0
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.0
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.4
	総合評点	3.9
<p><b>[コメント]</b></p> <p>国の政策においても、飼料自給率を向上させることは喫緊の課題であり、特に粗飼料自給率は将来目標の数値として100%とされているところである。</p> <p>一方、ここ数年に亘る著しい気候の変動は、サイレージ調製時期の設定を難しくしており、これが年間を通じての自給飼料利用を阻む原因と考えられる。国が設定した自給率の数値目標を達成するためには、様々な環境条件に対応するサイレージ調製技術が必要となる。本課題は、そのための技術開発と位置づけられる。</p> <p>降雨の影響により水分含量が高い場合、どの程度それを補正し、高糖分牧草種を混合すれば品質の良いサイレージが調整可能か？また、その際に使用する乳酸菌製剤は、どの様な物が適切か？こうしたことは分かっているようで、現場に下ろす技術としては確立していないのが現状である。</p> <p>本課題では、将来的に想定される様々な環境条件において、良質なサイレージ調製技術を確立するところが重要であり、小スケールで可能となった技術は、現地実証を経て、即現場に下ろすことができるのもメリットである。サイレージを調製、利用する農家においては、状況に応じた(調製方法の)選択肢が増えるため、粗飼料の利用や自給率の向上に資すると考えられる。</p>		

## 事前評価報告書

畜産酪農技術センター試験研究評価委員会

平成30年8月21日(火)

研究種別	県単(一般分)課題	
研究課題名	ホルスタイン種における簡易的な採卵プログラムの確立	
研究期間	平成31年度 ~ 平成33年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.4
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.8
	総合評点	4.3

## [コメント]

畜産に限らず、農業分野での担い手が将来的に減少することが見込まれる中、効率化と省力化は重要な課題と位置づけられる。本課題は、ウシへの負担軽減のみならず、酪農家の作業軽減と経費節減に繋がる研究と位置づけられる。

ホルスタイン種の採卵プログラムの簡素化のため、FSH(卵胞刺激ホルモン)製剤の投与回数を減らし簡易化を図ろうとする点に新規性があり、本方法が確立されれば省力化や効率化が図られ、かつアニマルウェルフェアにも貢献すると考えられる。

達成目標や研究計画は明確に設定されている。本課題はウシの生涯成績にも係わる内容であることから、結果に応じて研究の延長も視野に入れ、確実に実用化できるように取り組んで欲しい。